

(様式1)

自己評価票

作成日 平成29年1月13日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0893100073		
法人名	社会福祉法人 親愛会		
事業所名	グループホーム ウィステリア倶楽部	ユニット名	西館
所在地	〒311-3115 茨城県東茨城郡茨城町前田1707-349		
自己評価作成日	平成28年9月27日	評価結果 市町村受理日	平成29年1月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigyosyoCd=0893100073-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成28年11月29日	評価機関 決 済 日	平成29年1月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>基本姿勢として、ご本人の選択の機会を大切にし、一つでも多くの場面でご利用様が『選択』出来るように、多くの選択肢を用意することを意識しています。また、以前の生活との連続性に配慮して、くつろげる時間や空間の工夫、その方の特別な日や特別な方との交流・個々のこだわりに対し、一人ひとり、一つひとつの場面に「おもい」を込めて向き合い、いつまでもその方らしく過ごして頂ける居心地の良いサービスの提供を心掛けています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は目の前の道路を隔てて水戸市と茨城町のはざまに位置しており、居間兼食堂や居室は日あたりが良く、利用者が穏やかに過ごせる環境となっている。</p> <p>「地域に貢献し、地域に育てられ、地域と共に歩みます」との理念を掲げ、行事計画担当係や地域連携係など各種係を設け、地域住民との交流や外出などを支援しているほか、利用者一人ひとりの趣味や嗜好に合わせてお酒や喫煙なども、健康面を配慮しながらなるべく今までと変わらない生活が送れるように支援している。</p> <p>事業所では行事食のほかに、週1回のスペシャルランチや月1回のスペシャルディナーの日を設け、食事が楽しみとなるよう工夫して提供している。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『地域に貢献し、地域に育てられ、地域と共に歩みます』を理念に掲げ、事業所理念をユニット内に掲示すると共に、実践につなげられるよう、地域住民との合同研修、地域住民への事業所開放、地域イベントへの参加をしている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を中心に、地域の行事などの情報を得ている。地域の輪投げ大会に参加、公民館での展示会を見学、いばらきまつり等、積極的に参加している。また、地域住民を事業所の祭りに招待するとともに、模擬店の販売などで祭りに協力してもらうなどして、地域との交流を図っている。また、日曜日のデイフロアを開放し、サークル活動などに事業所を活用してもらっている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	エコキャップ、アルミ缶の回収と寄付を継続して行なっている。研修会などにおいて、地域住民と共に学ぶ機会を作っている。（腰痛体操、救命救急、感染症予防）
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年間計画を立て、町職員、区長、民生委員、高齢者クラブ会長等町内代表、家族代表に参加していただき、2ヶ月に1回地域の公民館で開催している。毎回、入居在籍者数、実施した活動（活動の様子の写真をつけて）今後の活動予定、事故など報告を行ない、感想や意見等をサービスの質の向上に繋げている。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には行政の代表者が毎回参加している。事業所で抱えている利用費滞納者などの報告の他、法令等での疑問点や、重大事故発生時などには行政に相談・報告を行なっている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に向けたマニュアルを作成し、認識を深めたりお互いを注意し合うなど、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。玄関は防犯上夜間のみ施錠しているがユニットの入り口のドアはドアは施錠せず、利用者が自由に出入りできるよう職員が付き添って見守りをしている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や資料等から学び、言葉による虐待も含め話し合いをしながら、虐待の防止に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人がついているご利用者がおり、後見人とは密に連携している。認知症の方の権利擁護に向けて、後見人と話し合う機会を設けている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を使って、十分に説明し、疑問点について質問を受け、答えたうえで契約を行なっている。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している他、年1回は無記名のアンケートを実施。ご利用者からは日々の会話の中から、ご家族には月1回の手紙や面会時にご利用者の近況を伝えながら、ご意見、ご要望等がないかお聞きし、何でも言ってもらえるような雰囲気作りを心がけている。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議・グループ会議・全体研修などの機会に自由に発言する機会を設け、提案があれば、その後の事業運営に反映させている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通じて施設長が職員の努力や実績・勤務状況について把握し、法人の理事長に報告している。積極的に正社員に登用するなどの取り組みを法人全体で行なっている。
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を定期的実施している。接遇面に対しホテル勤務の方や環境整備（掃除方法）について、プロを講師として招き、他職種から学ぶ機会も作っている。外部の研修に対しては希望者を募り、機会を与えている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	施設長は研修会などの機会に、日常的に他事業所の同業者と情報交換している。相互訪問を行ない、お互いに良い所を学び、サービス向上を図っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の気持ちに寄り添い、本人の意向をくみ取ることで不安を解消し、家族の協力を仰ぎながら本人の安心できる環境を作り、自宅での生活の延長となるように努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望の聞き取りを行ない、その事柄に対応していくことでより良い関係づくりに努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様のご自宅での様子などを聞き取りし、本人やご家族の思いを確認し、今後の施設での生活を予測しながら支援の提案など話し合い必要なサービスに繋げるようにしている。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日常生活の中で体験したことをなどを教えていただいたり、実際にやっていただいたり、見ていただいたり、そういう場面を多くもてるよう工夫や声かけに配慮し、徐々に家族のような関係性が築けるようにしている。
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度は広報誌とともに日常の様子を手紙でご家族へ報告している。ご利用者の希望に対し、どのようにしたらいいかをご家族と一緒に考え、共に支えていく関係性が築けるようにしている。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員はご利用者が希望する馴染みの場所に出かけられるよう、職員と共に出掛けられる機会を作っている。知人や友人などの来訪時は、ゆっくりと話ができるように支援し、馴染みの関係が途切れないようにしている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性をみて、外出時の参加メンバーや日常の席順を配慮したり、日常の作業（洗濯物畳み等）を通してや、ユニットを行き来したりし、ご利用者同士が関わり合いをもてるよう職員が調整役として支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	期間内に契約終了者なし。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	計画作成担当者は、入居時又は適時にアセスメントを行ない、ケアプランに反映させている。また、職員はご利用者との日常の会話や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認しご利用者の意向を確認している。意思疎通が困難な場合は、家族や関係者から情報を得るようにし、その方の立場に立ってよりよい方向性を検討している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査時に、生活歴や環境の聞き取りを行なっている。また、新たに必要な情報については、入居前のサービス提供者等からも情報収集を行なっている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身の状態についてはケース記録で把握できるよう記録し、特に特変事項を中心に申し送りをしている。季節や入院、退院などにより変化がある為、その都度申し送りノートで伝達、把握するようにしている。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者、居室担当者、ユニットの介護職員が参加するカンファレンスで本人の現状、今後の課題やまた本人が何を望んでいるのかを話し合い、現状を把握し計画作成に取り組んでいる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気になる言動等をケース記録に記載し、一人ひとりの変化を見逃さないよう努めている。また、記録や申し送りを通し、職員間で情報の共有をしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態変化や、家族の意向を踏まえた上で柔軟に対応し、既存のサービスに捉われないことなく、支援に繋げている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の公民館でのイベントなどに参加している。また、地元の団体からボランティアなどで事業の手伝いを頂き、地域と協働して施設運営している。
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	自施設の協力医療機関に捉われず、本人、または家族の意向に添った医療機関への受診を行なっている。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置している。バイタルサインなどの異常、体調や些細な表情の変化など気づいたことは管理者、看護師に報告し必要な対応を随時行っている。バイタルサインなどの異常以外にも、些細な表情の変化も見逃さないよう早期発見に取り組んでいる。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリー等で必要な情報提供を行ない、入院中であっても、本人の情報収集に努め、医療関係者と連携を図り、早期退院できるように支援している。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応に係る指針」を作成し、契約時に説明し書面で同意を得ている。終末期の段階になった場合は、本人・家族の意向を再確認し、出来る事、できない事を明確に説明し最善の方法を検討している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、状況に応じた対応が出来るようにしている。研修会において、年1回、応急手当や初期対応の訓練を行ない、振り返りをしながら、実践力の向上に努めている。
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定を含めた避難訓練を年2回実施している。1回は消防所職員立ち合いで実施し、消防隊員から助言等受けている。又、運営推進会議でも災害時の協力体制について検討している。備蓄の食糧や飲料水のチェックやご利用者様に適した物となっているかの検討を定期的に行なっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご希望の聞き取りの他、個人を尊重し、その方のその時の世界観を大切にし、声かけや対応を心がけている。個人情報に関する書類は、ユニットの鍵の掛かる倉庫に保管している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の表情や仕草などから思いを汲みとったり、ご利用者が混乱せずに選ぶことができる働きかけを心掛け、希望に応じて外出支援、入浴回数・時間の選択など選択の場面を増やし、自己決定していただくよう支援している。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の希望に応じて外出支援を柔軟に行なっている。その日の体調や気分配慮し、その時のご利用者の気持ちを尊重している。食事時間や入浴は一人ひとりのペースに合わせて対応している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は自分で選んでいただき、その人らしいおしゃれが楽しめるよう支援している。本人が手にとり選択できる衣類などの買い物を支援をしている。外出や行事の時は、その行き先や内容に応じできる限りおしゃれを楽しんでいただくよう支援している。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好を把握し、苦手の食材の時には代替品を提供している。ご利用者のその日の体調にあったご飯の量を確認したり、咀嚼や嚥下状態にあった食事形態となるように配慮している。本人の能力に応じ、食事の準備など職員と一緒にいる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事チェック表を用いて、1日の状況を把握できるようにしている。水分不足と思われるご利用者には、本人の好みの飲み物を用意し、こまめな水分補給を促している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	可能な限りご自分で歯ブラシを利用し磨いていただく事を支援している。仕上げを要する方は支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を参考に排泄パターン把握するとともに、ご利用者の仕草やサインから察知し、声かけ誘導し、トイレで排泄ができるよう支援している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・食事チェック表で1日の必要な水分や食事量の状況を把握し、排便がみられない時は、ヤクルト、ヨーグルト、牛乳など食品で改善できるようにし、下剤に頼らない支援を心掛けている。腹部マッサージ、適度な運動や水分摂取で一人ひとりの状況に応じ、苦痛にならない支援をしている。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は清拭保持のためのみならず、趣向であると感じ、お一人ごとに浴槽のお湯を張り替え、その日の気分で入浴剤で選択したり、季節の合わせた菖蒲湯を取り入れたり、入浴が楽しめるよう支援している。利用者の要望に応じ、入浴回数、時間も柔軟に対応している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や、その日の状態に合わせて、安眠できるように室温調整や照明の明るさに配慮し、その方の落ち着く環境を整えている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カーデックスに薬剤情報説明書を入れて管理し、職員一人ひとりが薬剤の特性を把握できるようにしている。服薬内容に変化があれば、その都度申し送りをして変更後の状態観察をし、状態に応じ、主治医や薬局の薬剤師に確認したりしている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の盛り付けや洗濯物畳み、ご利用者が書道の先生となり職員を指導したり、生活歴・趣味・嗜好などご利用者一人ひとりに合った楽しみや自信もてる場面の支援ができるようにしている。食事の盛り付けや洗濯物畳みなど役割をしていただいた時には、感謝の言葉を伝えている。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の要望を伺いながら、「行ってみたい」「やってみたい」の気持ちを大切に個別での散歩や買い物、自宅の様子を見に行くなど外出支援をしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>能力に応じて、少額の現金を自己管理している方の見守りを行なっている。施設内の自動販売機を自由にご利用いただいたり、月2回の訪問販売で日用品・食料品の買い物や外食の時などは職員付添いのもと、会計していただいている。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人の申し出によりホームの電話を使い、家族へ連絡を支援している。電話の声が聞こえにくい方が多いため、職員が仲介役となり、要件を伝えたりしている。</p>
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間の清潔保持を意識しながら、外出時の写真を掲示する等見て楽しんで貰える掲示物やご利用者と一緒に四季折々の壁画を作成、掲示し、季節感を感じていただけるよう心がけている。共用空間の温度や室温にも気を配っている。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間であるリビングにはソファを、共用空間から少し離れたユニット入り口には椅子とテーブルを置き、独りになったり、利用者同士がお話できる空間を作っている。</p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家具やテレビ等、ご利用者が使用していた物を持ち込んで使用していただいている。馴染みの物に囲まれて穏やかに過ごしていただける環境づくりを心がけている。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>安全に歩行ができるよう手すりが設置されている。また、フロア内は車椅子がスムーズに移動できる十分なスペースがある。</p>

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が ○ 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない